

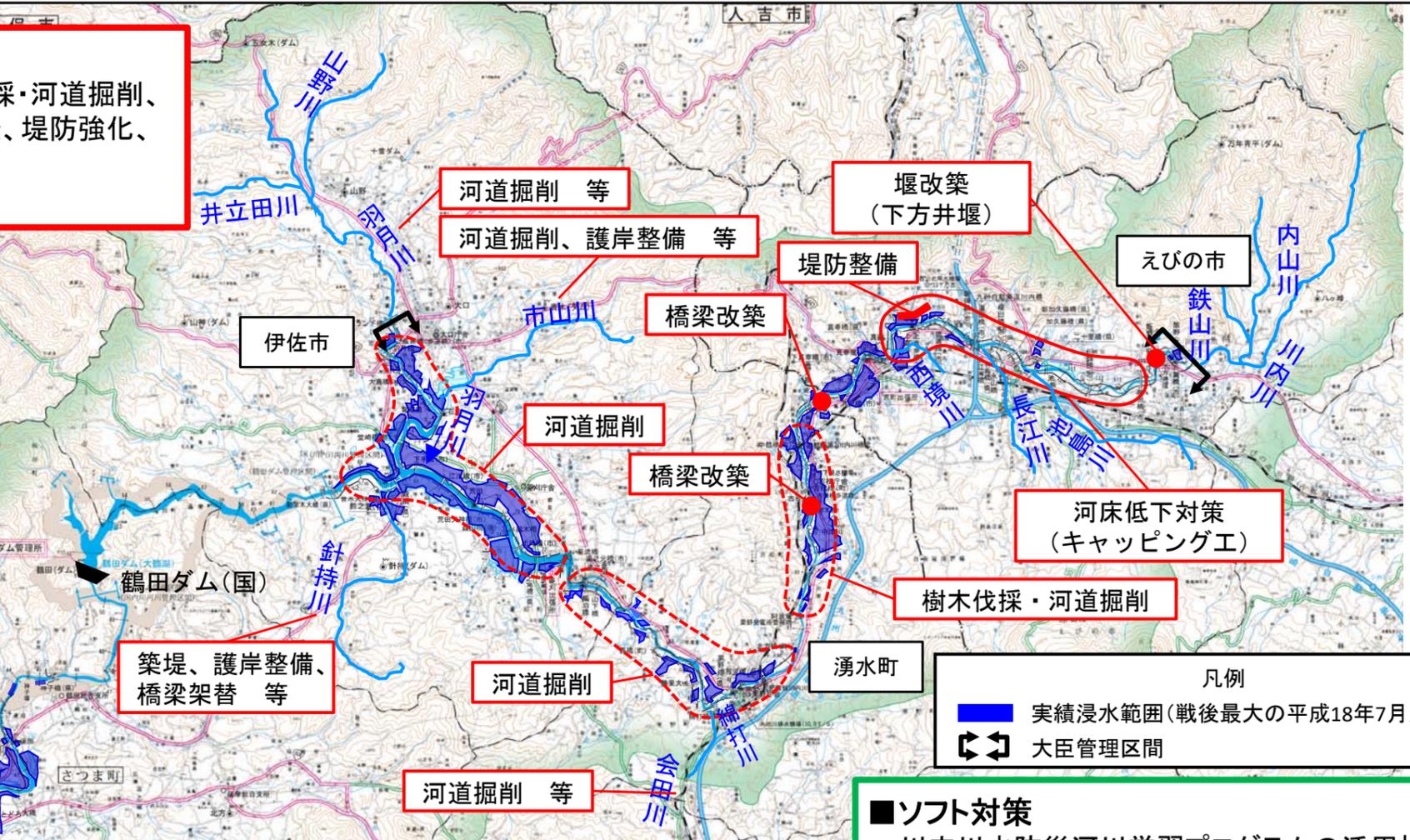
# 川内川水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ（案）】

～川内川水害に強い地域づくりを推進するためのハード・ソフト対策の確実な実施～

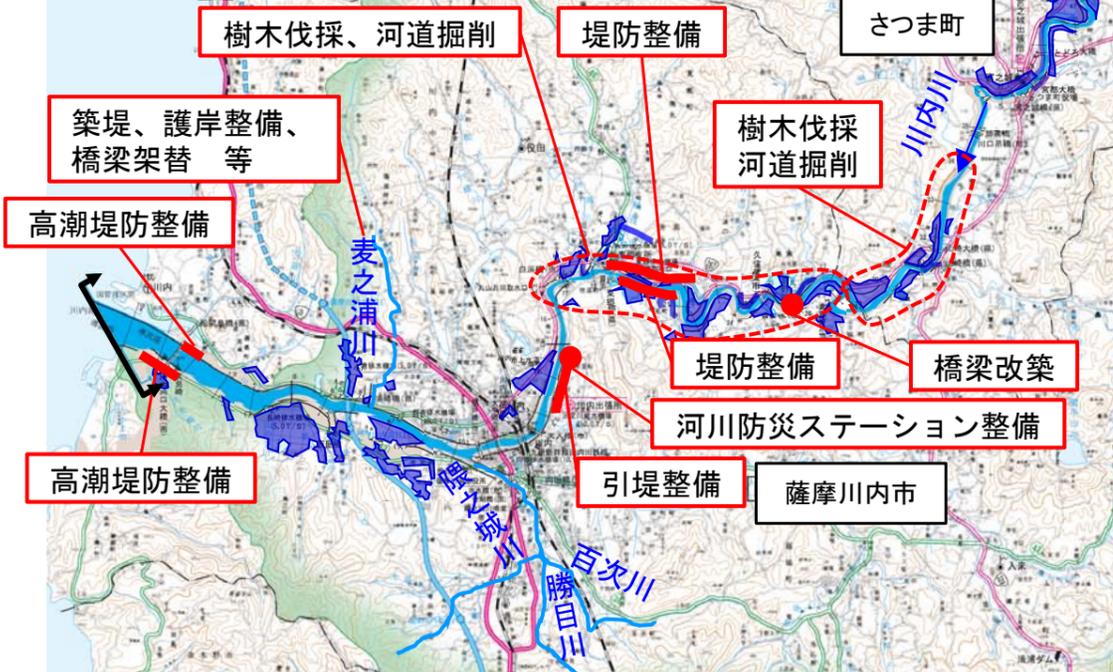
○ 令和元年東日本台風では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、川内川水系においても、事前防災対策を進める必要があることから、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、戦後最大規模の平成18年7月洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。



**■河川における対策**  
 対策内容 引堤整備、高潮堤防整備、樹木伐採・河道掘削、堤防整備、護岸整備、堰・橋梁改築、堤防強化、河床低下対策(キャッピング工)、河川防災ステーション整備 等



凡例  
 実績浸水範囲(戦後最大の平成18年7月洪水)  
 大臣管理区間



**■流域における対策**

- ・ため池補修、ため池の治水活用
- ・開発行為に伴う流出増対策の強化
- ・利水ダム等4ダムにおける事前放流等の実施、体制構築(関係者:国、薩摩川内市、電源開発(株)、土地改良区など)
- ・土地利用規制・誘導(災害危険区域等)
- ・災害リスクを考慮した立地適正化計画の検討・展開
- ・排水機場の耐水化
- ・工事残土等を活用した避難路・高台整備
- ・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備
- ・道路の透水性舗装整備
- ・排水作業準備計画の作成・普及
- ・輪中堤の機能維持 等

※今後、関係機関と連携し対策検討

**■ソフト対策**

- ・川内川水防災河川学習プログラムの活用推進
- ・未作成区間の浸水想定区域図作成、及びハザードマップ作成
- ・水位計・監視カメラの設置
- ・関係機関における防災情報連携の強化
- ・市町相互による災害支援体制の構築(広域連携)
- ・病院施設等の周辺冠水時に備えた避難路・輸送路計画作成
- ・地域住民における自主防災組織の強化
- ・マイ・タイムラインの作成
- ・出前講座・防災学習の実施
- ・樋門・樋管の高度化(遠隔化・自動化)検討
- ・気候変動対応を踏まえた洪水調節施設等の検討(河川整備計画変更) 等

※今後、関係機関と連携し対策検討

※堤防強化対策は、堤防の詳細点検実施後、必要な箇所にて随時対策実施。

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。